

## 加賀電子、デジタルシネマ市場参入。米国 QuVIS 社 次世代デジタルシネマプレーヤを生産。

加賀電子株式会社は、米国 QuVIS 社と提携。次世代高精細デジタルシネマ用途向け映像再生機の製造に着手。同社技術を応用した ASIC の販売も手がける。

加賀電子株式会社(東証1部、証券コード:8154、取締役社長:塚本勲、本社:東京都文京区音羽、資本金 96 億 3354 万円)は、米国 QuVIS Inc. (CEO Kenbe Goertzen 以下、QuVIS 社)の、次世代高精細デジタルシネマ用途向け機器の生産・販売・OEM 販売での業務提携契約を締結しました。また、「QDMC」と呼ばれる新設計 ASIC の販売にも着手してまいります。

QuVIS 社の技術はデジタルシネマ市場で、Walt Disney Studio, Warner Brothers をはじめとする主要コンテンツ配給会社のデジタル配給フォーマットのスタンダードとして数多くの実績を誇っています。加賀電子では、デジタルシネマ市場で JPEG・MPEG の次ぎに有望視されている QuVIS 社の「QPE™ (Quality Priority Encoding)」技術のライセンス供与を受け、次世代高精細デジタルシネマ用途向けプレーヤの生産・販売を行います。QPE™は、視覚的ロスの少ない圧縮技術である「ウェーブレット圧縮理論」を実装した製品です。ウェーブレット圧縮は、動画像の圧縮時に映像信号をいくつかの周波数帯に分け、人間の目に影響の少ない周波数帯域を圧縮することによりデータ量を軽減する技術で、原理的にブロック歪みが発生しない点が最大の特徴です。地上デジタル放送を含む MPEG 技術などと比較して、ブロック歪みなどが無いことに加え、非常に高精細な映像を維持しながら圧縮率を高められる点が、次世代動画フォーマットとして期待されています。

加賀電子では、このウェーブレット圧縮を用いた QPE™技術のライセンスを受け、次世代高精細デジタルシネマ用途向けプレーヤの製造・販売を行います。これにより旧来 1,000 万円以上したデジタルシネマ再生機市場において、1/3 以下の金額を実現できるようになる見通しです。本機は将来的に「QDMC™ (QuVIS Digital Mastering CODEC)」と呼ばれる新設計 ASIC を採用する予定。QDMC™はリアルタイム QPE™でのエンコーディング・デコーディングに対応し、非常に多くの動画入出力フォーマットもサポートしています。またコンテンツ保護のための AES 暗号化機能にも対応し、QPE™による非常に素材に忠実なデジタルイメージを再現できます。

映画業界では、コンテンツのデジタル化が進む一方、既存映画データのデジタル化保存(デジタル・マスタリング)の需要も大きく伸びることが予想されます。世界の映画業界の中心である米国ハリウッドでは、映画配給メジャー7社(ワーナー、ディズニー、20世紀 FOX、ユニバーサル、パラマウント、ソニー・コロムビア、MGM)で構成される DCI(Digital Cinema Initiative)が、デジタル映画の基準設定を儲けることで動いており、同組織が推奨する仕様をカバーできるクオリティの製品を供給できる体制

が整ってきています。

デジタルシネマの分野から見た場合、この次世代高精細デジタルシネマ用途向けプレーヤは、標準で「2K」(2048×1556)と呼ばれる高解像度までをサポートしており、将来的オプションで「4K」(4096×2160)までをサポートする予定です。現在開発中のこの製品は、3月22日から25日まで米国ラスベガスで開催される「ShoWest 2004」にてデモンストレーションされる予定です。

映画館は日本で約2,000カ所、世界で約10万カ所近くあると言われております。これらの機器を映画館が導入することで、衛星放送を使って、各映画館はその時々々の状況に合わせて人気のある映画を好きなところで、好きな時間に放映することが可能となります。

映画会社としましても、従来の高額なフィルム代金やテープ代金も必要なくなり、コスト削減に繋がり、現在見られるような経時劣化も大きく改善することができます。

加賀電子は、映画業界だけではなく、今後は屋外展示/ディスプレイ市場・高解像度シミュレーション・医療・デジタル家電・音楽コンサートやスポーツイベントの映画館ライブ配信など、様々な分野での同技術の展開を視野に入れ、営業展開を図っていきます。

加賀電子では2005年度3月期においてQuVIS社製品での約10億円の売り上げを見込んでおります。

加賀電子株式会社の詳細については、ホームページ([www.taxan.co.jp](http://www.taxan.co.jp))をご覧ください

## QuVIS社について

米カンザス州トピカに本拠点を置くQuVIS社は、1994年に創立以来、常にデジタル動画技術において業界をリードし続けています。QuVIS社はQPE™(Quality Priority Encoding)をベースとした非常に高品位なデジタルレコーダーの設計・製造・開発を行っています。代表製品であるデジタルシネマプレーヤの「QuBit」は、高解像度のデジタルサーバーやフィルムに置き換わるデジタル基幹技術として注目されており、オペレーションの容易さ・業務用途での信頼性そしてコストに至るまで、業界での厳しい要求を満たしています。QuBitは、録画・保存・再生用途として、ビデオ・映画・コンピュータアニメーション・CG・ディスプレイ産業・テレビ放送・ヴァーチャルアトラクション・マルチ映像など、様々な分野での導入がなされています。QuBitは、50以上のHD・SD・CGIなどの業界標準フォーマットをサポートしています。これにより、QuVItは非常に多様な分野・目的での映像の配信・上映・保存ができ、それら映像は非常に高品質を維持できます。

1999年より、世界各国で既に数百本の映画がQuVItを用い「デジタル上映」されています。デジタル上映を行うことによりフィルムのような経時劣化なく最後まで最高のクオリティを維持することができます。近年の代表的なデジタル上映作品としては「トイストーリー2」「ダイナソー」「ファンタジア2000」「パーフェクトストーム」「スパイキッズ」「シュレック」「ジュラシックパークIII」「アイスエイジ」「ショウタイム」「スターウォーズエピソードII クロウンの逆襲」「102 ダルメシアン」などがあります。日本国内においては「千と千尋の神隠し」「ファイナルファンタジー」「仮面ライダーアギト・百獣戦隊ガオレンジャー」「ミッショントゥマーズ」「長崎ぶらぶら節」「ホテル」「ラマになった王様」などがあります。

QuVIS社は、今後も映像制作・保存・配信・上映分野において様々な製品の開発を行って参ります。詳しくは、QuVIS社のホームページ([www.quvis.com](http://www.quvis.com))をご覧ください。

## 加賀電子株式会社について

加賀電子は、1969年、独立系の電子部品商社として設立されました。電子部品・半導体の販売から技術開発のサポート、EMS(電子機器の受託製造サービス)、情報機器および周辺機器の販売まで、国内海外のグループ会社32社のネットワークを生かしてエレクトロニクスに関するあらゆるお客様のご要望に応こたえております。

以上

上記リリースに関するお問い合わせ  
加賀電子株式会社  
情報機器事業本部 アップル販売事業部  
ソリューション営業課 デジタル映像グループ  
担当:安岡  
e-mail :yasuoka@taxan.co.jp  
Tel : 03-5206-7650